

加藤 久美

医療法人愛仁会太田睡眠科学センター
大阪大学大学院連合小児発達学研究科

睡眠時の異常行動を主訴に小児が受診した場合、行動の内容、起こる時間帯、行動の長さを問診することが鑑別に重要なのはもちろん、診断にはビデオ・ポリグラフィーが有用です。ノンレムパラソムニア、レムパラソムニアともに発達障害との関連が報告されており、発達面にも着目すべきであると考えます。症例を挙げ、鑑別のポイントを解説します。